

意見書（案）

江別市の小学校及び中学校の学校給食用食器については、PEN（ポリエチレンナフタレート）樹脂製食器の使用が適当と考えます。

（附帯意見）

- ・ 食への意欲向上のため、地域性があり、親しみの持てるデザインについて検討すること。
- ・ 変更後においても、これまでと同様「みんなで使う食器を大切する」という観点からの教育を継続すること。
- ・ プラスチックに耐用年数は設定されていないが、傷等による悪影響に配慮し、劣化状況等を確認できる管理体制を構築すること。

令和8年 月 日

江別市教育委員会
教育長 黒川 淳司 様

江別市学校給食用食器検討委員会
委員長 安部 由里香

【江別市の学校給食用食器について】

(1) 食器の使用状況等

- ・市内小中学校では、約 9,000 人の児童生徒及び教職員に対し、年間約 200 日間給食を提供。
- ・提供する食器は強化磁器食器を採用しており、1 日 27,000 枚の食器(中皿、小皿、カップの 3 種類)を使用し、毎日の給食提供、食器回収・洗浄を行っている。

(2) 現状および課題

学校現場では、年間約 1,300 枚程度の食器破損が発生しており、欠片が食缶に混入し危険異物の原因となった事案や児童が怪我をする事案も発生していることから、安全対策の強化が課題となっている。

【PEN 樹脂製食器の使用により期待される効果】

(1) 安全の実現

PEN樹脂製食器は強化磁器と比較して割れにくい食器であり、破損による事故が大幅に低減され、危険な異物混入や児童生徒の怪我などのリスクが軽減される。

(2) 安心の実現

児童生徒が運搬時に感じる「割ったらどうしよう」という緊張感を和らげ、ストレスを低減させることで、配膳業務がスムーズに行えるようになり、落ち着いた環境で給食を食べ始められることが期待できる。

(3) 食事をする時間の確保

強化磁器と比較して軽量であり、準備に係る時間が短縮される。また、割れにくいことにより、破損時の対応が生じないため、食事をする時間が確保できる。

(4) 給食に関連する作業の負担軽減

強化磁器と比較して軽量であり、児童生徒の配膳の負担軽減、給食に携わる調理員や配送・配膳員の身体的負担が軽減する。

(5) 災害時のリスクを軽減

給食時間に地震災害が発生した場合に、食器の破片が散乱した中での避難行動など、危険な状況を防ぐことにつながる。

江別市学校給食用食器検討委員会委員(敬称略)

令和7年度	委員長	安部 由里香			
	副委員長	工藤 愛			
	委員	山本 和彦 小林 周平	越川 ゆきこ 中井 和夫	小林 道 和田 陽一	
令和 8 年度	委員長	安部 由里香			
	副委員長	川岸 尚史			
	委員	金丸 剛輝 小林 周平	杉島 琴衣 中井 和夫	小林 道 和田 陽一	